

美方高校新聞



発行所
福井県立美方高等学校
新開責任者部
編集者
新開部

春季総体5種目制覇 男女総合優勝

春・夏・秋 三冠目指して突き進む

六月四日、久々子湖で行われた春季総体ボート競技会に美方高校ボート部が出場し、男女舵手付きクオドルプル、男女シングルスカル、女子ダブルスカルで見事優勝杯を勝ち取った。全国大会をはじめ、アジアジュニアなど世界で戦う美方高校ボート部、今大会でもその貫禄を十分に発揮した。

男女舵手付きクオドルプル

大会前日の大雨の影響で、予選から決勝の全レースを一日にまとめて行った。決勝は二回レースを行いその総合で順位が決まる。まず行われたのは女子クオドルプル。若狭高校との一騎打ちとなった。メンバーは小野寺沙耶、野瀬彩音、江田歩未、大藤咲来、満田真央の五人だ。決勝Iでは千mまで並ばれ、焦りで漕ぎが乱れたがラスト五〇〇m、諦めず艇を運び競り勝った。決勝IIでは反省を生かし、スタートから先頭を譲らなかつた。ゴール後は、レース中の漕ぎを振り返りながらもインハイへの切符を掴んだ喜び



を噛みしめた。このチームは一年から三年まで経験差がある。三年生のリードに一年生も向上心をもって応え、チーム一丸で漕ぎの改善に取り組んだ。

その成果が現れた勝利だ。男子メンバーは中田涼雅、石田歩、浜松紘生、天渡羅偉、寺田成輝の五人だ。コックスが前任の赤尾寛太から寺田へ、また、今大会シングルに出場した三年岡本の代わり二年の中田が加入。ポジションが変わり、各々がスキルを磨き直して大会に臨んだ。決勝Iの序盤、まずは先頭をキープ。中盤までは敦賀工業がすぐ後を追ってくるも想定済み、差を詰めさせず終盤でスパートをかけ一気にゴールした。

同決勝IIでも新造チームの改善点か、荒れたコンディションに苦戦しながらも、先頭でゴール。インターハイへの切符を掴んだ。このチームは意見ををはっきり言い合えるところが強み。艇の上では学年関係なく改善点を言い合う。練習中、連携が全く上手くない日もあった。しかし、声を掛け合い理想の漕ぎへ少しづつ近づけてきた。次の目標は一つ、インターハイ優勝だ。

男女シングルスカル

男子シングルは岡本風哉、女子シングルは岩本結愛が制した。両者は通常はクオドルプルのクルーだが、世界ジュニアを想定し、シングルでの出場となった。世界ジュニア代表は六月八日からの合宿で選考される。二人は「課題点を一つ一つクリアしていきたい」「絶対に選ばれてくる！」と語ってくれた。

女子ダブルスカル

女子ダブルスカルは武田望花と志賀祐月のペア。二人は「19アジアジュニアにも選ばれている実力者だ。志賀はシングル以外での大会参加は初めての



ため、練習は武田がリードした。決勝レースは若狭高校との一騎打ち。二人は乗艇期間の短さにも関わらず、決勝I、IIともに序盤から力強い漕ぎで終始相手をリードした。ゴール後、武田は「志賀と一緒に漕げて楽しかった！ダブル部門三連覇を成し遂げることができて嬉しい」と喜んだ。志賀も「誰かと一緒に勝利するのは高校初だったので嬉しい」と語った。武田はインターハイではクオドルプルに乗る予定と話し「先輩の連覇を繋げるよう頑張りたい」と次を見据えた。

清水先生のコメント

今年は部員が少ないが、クルーはもちろん補助員も自分の役割を果たし、チーム全体で試合に臨むことができた。春、夏、秋の三冠を目指して、まずはインターハイの準備を進めていく。今大会で男女総合優勝を成し遂げたものの、インターハイへ向けて全体のレベルアップが必要。そのためには、二年生の飛躍が不可欠だ。志賀、中田他の一、二年の大きな成長を期待し、インターハイ優勝を狙っていく。
